

第74号

青森地区保護司会

保護司会だより

発行：青森地区保護司会広報部
青森市長島1丁目3-28
更生保護施設プラザあすなる
青森地区更生保護サポートセンター内
TEL017-763-0763



油川、奥内、後潟、蓬田、外ヶ浜、今別など
地域の人たちと共に連携と親睦を深めた



富田保育園 (青森市)



蓬田保育園 (蓬田村)



三内丸山町会 防災器材倉庫前 (青森市)

古川中・全校生徒が一堂に集まり平常に開催

「社会を明るくする運動」は、7月11日(火)、古川中学校で全校生徒が体育館に集まり開催された。(澤田孝頼校長、全校生徒数255名、令和5年月1日現在)

青森保護観察所 野尻実所長から内閣総理大臣メッセージを澤田校長へ伝達、西秀記青森市長(社会を明るくする運動青森地区推進委員会委員長)、校長挨拶後、法務少年支援センターあおもり(青森少年鑑別所)の竹之下氏が「地域を共に明るく過ごすために」と題して講演した。

第二部は、青森県警察音楽隊による吹奏楽の演奏があり、生徒からお礼の言葉、校歌斉唱、閉会は青森地区保護司会天内修会長の挨拶で終了した。



写真提供・古川中学校

【特別紙面講話・保護司32年の軌跡】

体験を通じて“物事を深く理解”

青森地区保護司(第4分会)・青森県薬物乱用防止協議会会長 小豆畑 緑



昭和21年黒石市に生まれ黒石高校、東北女子短期大学、玉川大学を卒業、青森市立沖館小で講師を約2年半、その後有吉佐和子の僻地教育の小説に憧れて今別町立奥平部小学校に本採用となる。

その頃、青函トンネル工事で来ていた、小豆畑を紹介され結婚して上京、その後事情があって青森に居を構え四人の子を子育て中、地元新城中央小のPTA初代会長となる。会長に就任して間もなく青森少年院に研修で訪れた後、院長先生からの希望で篤志面接委員(院生の相談にあたる)にお願いされましたが、入院されている子はいずれも私の子供達より年上でしたので、自信もなくお断りしたのですが、職員の方からは、「私達は父親の役は出来るけど母親役は出来ないのでもそこを補ってほしい」と説得されお受けすることにしました。

青森少年院は、現在は統廃合のためありませんが、平内町にあり、列車を乗りついで小湊駅に着くと黒塗りの車が迎えに來られ驚いたものです。

院内で少年と面接するためには錠のついた扉を3~4回通って面接室に入りました。面接した少年達は、素直にこれ迄の生育過程を話され、彼等の生活環境さえしっかりしていたら、少年院に入院することもなかったのに、と本当に可哀想でした。途中から面接指導と合わせて合唱指導もすることになり、大きな声でドイツ語で第九を歌う少年達は本当に非行少年?と思ったものでした。

ある日、少年院の運動会で保護司に推薦したいとお声をかけていただきました。私は中学の頃から、困っている人がいたら手助けをしたいと思っていましたので引き受けることにしました。この時以来(平成3年)保護司として32年間の月日が過ぎました。この間、いろいろな対象者の方と面接しましたが、忘れられない記憶に残る人がいます。



彼女は夫と関東にある工事現場で知り合い結婚して、夫の故郷の青森で一人暮らしていた夫の姉と同居することになりました。夫は工事現場を転々としていたので、普段は義姉と二人暮らしです。義妹となった弟の嫁が気にいらず暴言でいじめられた彼女は灯油をかぶり焼身自殺を図ったのです。たまに帰ってくる夫がもう少し彼女に理解を示していればこんなことにならなかったのと思ったものでした。

彼女は火傷をおい、義姉の家も焼けました。懲役3年、執行猶予5年、保護観察5年で私が担当することになりました。事件後、義姉とは別に夫婦でアパートに住んでおりましたが、義姉からは「火事で焼けた損害賠償や嫌み」など執拗に電話があり、次第に精神的に追い込まれていったのです。そして、暮れも押し寄せたある夜「私やっぱりこれからお義姉さんを殺しに行く」という電話がきました。私はびっくりして「貴女そんなことしたら来月結婚する娘さ

んはどうなるの?旦那さんは人殺しの夫と呼ばれるのよ、落ち着いて考えて!!」そこまで言ったら電話は切れました。

どうしたらいい?頭が真っ白になりましたが、とにかく分会長に電話で指示を仰ごうと思い、電話をしました。分会長からは「警察に連絡し、義姉の家と対象者のアパートへパトカーの手配を」と、指示通り電話を終えタクシーを呼び対象者のアパートへ出かけようとしたその時、警察から「タオルに包んだ包丁をしっかりと握り車の中でうずくまっていた彼女を確保した」と電話がありました。警察はアパートに着いた私に二・三言話し帰って行きました。泣きじゃくり抱きつく彼女をしっかりと抱きとめ「よく我慢したね。」と、彼女の気持ちに落ち着くのを待って帰路に着いたのは午前2時頃でした。外は雪の散らつく寒い夜でした。やがて保護観察期間も終了し、彼女はまた夫と一緒に工事現場の賄いをする事になり青森から引越しました。夫婦で懸命に働いたお金で家を建て、子や孫の近くで暮らしています。

あれから25年今でも年に数回電話が来ます。子供の事、孫の事、会社の事、亡くなったご主人の事、そして最後に私と巡り合ったこと、一回の通話は一時間を越しますが1人暮らしの淋しい彼女のいつかの慰めになればと思っています。

もう1件心に残った対象者は中学校の卒業式を終えたばかりの15歳の少年です。家庭に恵まれず祖父母に育てられました。保護観察終了後、市内の土建会社に就職させました。まだ15歳で免許もありません。会社の通勤は社長の計らいで社員が送迎、その後車の免許取得にあたって勤務中でありながら社員が送迎、13回の受験でやっと免許取得。対象者の環境をよく理解して、少年の更生に力を入れて下さった社長さんでした。その頃は「小豆畑さんいい人を紹介してくれたな。仕事もすっかり覚えて、たまに県外出張も頑張っているよ。」と近況報告をいただいたものでした。私は何のお返しもできずにいましたが、議会で協力雇用主に対して建設工事競争入札5点の加点を決めたことがせめてものお返しだと思っています。

しかし、残念なことにその少年は数年後、飲酒運転で免許を無くし退職、その後の音信はありません。人の好意に甘えて、自分を律することができなかった。生育環境が大きく影響しているとおもいました。

私が保護司を拝命しなかったらこういう経験はなかったでしょう。保護司を拝命したことで世の中にはいろいろな人がいて、様々な境遇があることがわかりました。これ迄関わった人達はみんなひとりひとり違います。どれひとつとっても同じケースはありません。だから対象者をわかってあげなければダメだと思います。そのためにも学びは大切です。

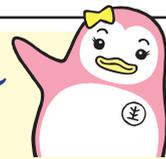
私は時間の許す限り研修会に参加し、より幅の広い視野でモノを見ることができるようになっていますが、それが対象者に対しても理解を深めることができる、と思うからです。



更生ペンギンのホゴちゃん

～ 第73回 社会を明るくする運動～

中学校連携事業 **古川中学校**



更生ペンギンのサラちゃん



開催日/令和5年7月11日(火)・地域活動部会

【生徒の感想文】「社会を明るくする運動」に参加して

1年 後藤 理子

「社会を明るくする運動」で、私が特に印象に残ったのは、「I am OK You are OK.」という言葉です。例えば、休み時間に一部の人がただボールを使って、遊んでいたとします。当然、不満に思う人も現れます。そこで、先ほど言ったキーワードが重要になると講師の先生方は、おっしゃっていました。ボールを自分達だけで使っていた人に対し、大きく分けて3つのパターンの言い方があります。ここでは、ドラえもんに擬人化します。一つ目は、ジャイアンタイプです。「これは俺のボールだ。早く返せ。」などと自分は良い思いをしますが、相手は不快な気持ちになります。次は、のび太タイプです。「このボールを使ってもいいけれど、僕達のものだよ。」などと、相手はよく思いますが、自分は納得いかないと思っています。そして最後は、しずかちゃんタイプです。「このボールは、みんなのもの。順番に遊んでいきま

しょうね。」などと自分も相手もすっきりします。勿論この中で最も良い言い方は、しずかちゃんタイプです。普段の生活を見直してみると、私はみんなに対し、きつい言い方で話していることがあるので、相手も自分も気持ちよく生活できるようにしたいです。

また、薬物乱用についての指導もありました。一時の判断で人生を棒に振りたくないの、絶対に使用しません。今は、インターネットが復旧し、とても便利な生活になりました。しかし、それを悪用する人もできます。その一例として、サプリメントと偽造し、致死量に及ぶ薬品を売っていたというのがあります。危険な薬は、老後にも影響が出てくるらしいし、後遺症を残るそうなので、気をつけたいです。この講演で学んだ薬物乱用についてや犯罪、「I am OK You are OK.」を今後の生活に活かしていきたいです。

2年 守谷 友希

私は、社会を明るくする運動の講演を聞いて、相手のことを考えてから話すことが大切だとわかりました。私が小学生の時、「これ、貸して。」と友達のシャープペンシルを借りたことがあります。しかし、友達は嫌な顔をしていて「シャープペンシルぐらい貸してくれたっていいじゃん。ケチだなあ。」とっていました。その後、友達から「あれは家族からもらった大切なものだったんだ。」と言われ、「私は申し訳なかったなあ。」と反省しました。講演を聞いた後、もともと自分で自分の意見を話す事は大切だと知っていたが、相手の意見も聞くことも大切だとわかりました。これからは、「I am OK You are OK.」に気をつけて生活したいです。講演が終わった後は、警察音楽隊の演奏がありました。聞

いたことがある音楽がたくさんあったため、とても楽しむことができました。古川中学校出身である方が二人もいて、いろいろな話を聞くことができうれしかったです。途中、歌も歌ってくださり、とても上手でびっくりしました。旗を飛ばしてもきれいにキャッチをされていてすごかったです。警察音楽隊の方々から「ジャンボリーミッキー」のダンスを踊っていて見ている方も心が踊ることができました。警察官は犯人を捕まえたり、街のパトロールをしたりする仕事だと思っていたけれど、歌も歌えて楽器も演奏することができて、とてもカッコいい仕事だなあと思いました。

大変忙しい中、たくさんの方を教えたいただき、本当にうれしかったです。私も今回学んだことをこれからの生活に活かしていきたいと思います。

3年 高田 碧生

今回の「社会を明るくする運動」で、僕は、犯罪か非行を起こしてしまった場合、今までは知る機会がなく、詳しい事は知らなかったことを、その後でどうなるのかなどと詳しい説明で理解を深めていくことができました。僕は、人にお願いしたり、何か要求したりするときに、強く言ってしまったり、命令口調になってしまったりしてしまい、相手に嫌な思いをさせてしまっていることが多いと思います。だからといって、自分の言いたいことが言えなくなってしまうのは、自分にとって嫌な気持ちになると思います。よって、人に物を言うときには、自分の言いたいこと、言うべきことをしっかり言い、その言葉で相手が嫌にならないか、しっかり考えてから発言したいと思います。相手の心に思いやりを持ち合うことで、相手はもちろん、自分も良い思いになることがわかりました。「I am OK You are OK.」を意識していきたいと思いました。自分も相手も気持ちよく「OK.」と言えるよ

うな社会を目指していくべきだと思いました。

最近のニュースでは、非行や犯罪が減らず、苦しい思いをしている方が多くいると思います。これからの将来を担っていく僕達が、今回このような体験をできた事は、非常に貴重で、人生において大切なことだったように思っています。この経験をできたからには、僕たちが今後の社会を明るくしていかなければならないと思います。犯罪が毎日のように起きているこの世の中で、僕たちは絶対に犯罪・非行を起こさないということが当たり前ですが、最も大切だと思っています。また、犯罪が起きているこの世の中を、周りが簡単に許すことが当たり前ではないと言うことを伝えていくべきだと思っています。人と人が繋がってできている人生を良くしていくために、今から相手との関わり方を深く考えていきたいと思っています。貴重な体験ありがとうございました。

分会だより

7月は“社会を明るくする運動”強調月間・
再犯防止啓発月間です。

1分会

3校が統合した平内中



社会を明るくする運動IN平内中学校を7月12日、新年度平内町内3中学校が統合し新しい歴史をスタートさせた平内中学校で開催した。

生徒と教職員合わせて250名、町民と近くの保育園児及び職員合わせて約47名、保護司19名。総勢316名の参加があり、第一分会齋藤史彦氏の講演と青森県警音楽隊の生演奏で会場は大いに盛り上がり、社明運動の意義と理解を共有することが出来た。

9月には自主研修で青森刑務所見学や、保護司のなり手を探すための会議や退任保護司の送別会も開催。

2分会

ミニ集会は見送りに



今年度も筒井中学校と相談の上、社会を明るくする運動ミニ集会は見送ることとなりました。

6月29日、筒井中学校・筒井小学校・筒井南小学校にのぼり旗を設置し、7月28日に撤去しました。

来年は、ぜひ「ミニ集会」が開催できるように早めに準備をしていきたいと思っております。

3分会

交流会でも次回の計画



今年は、中学校2校(甲田・荒川)にのぼりを設置、さらに昨年からの継続で、了承を得た3分会の保護司の自宅や近所にのぼりを設置する運動を行った。

社明運動後の交流会は、熱気あふれる楽しい場であった。コロナ禍で活動が止まっていた自主研修の実施計画もある。また来年は、生徒が楽しく参加できそうな企画での社明運動を甲田中学校に提案しているので、とても楽しみである。

4分会

町村に伝達 広報グッズも



社名運動では、蓬田村役場、外ヶ浜町役場、今別町役場をそれぞれの地域の保護司と分担し、各町村へ口頭にて伝達式を行った。

各役場へは、のぼり5本とポスターの掲示、広報用ポケットティッシュ及びうちわを配布。また竜飛ホテル、宮田保育園、富田保育園、蓬田保育園にのぼり及びポスターの掲示をお願いした。

イベントでは、9月からの「第17回 かしロード280」協賛で、のぼり設置と鶴ヶ坂町会の夏祭りでも、うちわティッシュを配布した。(表紙写真)

5分会

継続のチカラ



高校生の座禅交流会(過去)

①JR浪岡駅、浪岡中学校周辺へのぼり設置、②夜店祭りで社明グッズ(ティッシュ、ミニうちわ)の配布、③浪岡高校生との座禅交流会、④浪岡地区安全・安心パレードでのPRを4つの柱に啓発活動を展開、ここ数年は、コロナ禍により活動の縮小を余儀なくされている。

①及び④については通常通り実施しましたが、②と③については、今年度も浪岡中学校を訪問して、生徒への社明グッズの配布とその活用を依頼するとともに、JR浪岡駅の地域交流センター「アピネス」にポスターとパンフを掲示し、代替措置とした。

ねぶた参加 熱気4年分



ホゴちゃんねぶた提灯も

令和5年8月4日、青森市PTA連合会のねぶたに青森県保護司会連合会、青森保護観察所、青森地区保護司会から有志が参加。4年分の熱すぎる気分。

令和5年9月1日付

新任保護司紹介 「保護司の委嘱をうけて」



相川 征昭

第1分会 (自由が丘)

令和2年3月に青森労働局を定年退職し、現在は、そのまま再任用雇用で勤務しています。私はこれまで2回単身赴任を経験し、そのうち1回は県外の秋田労働局への転勤もありました。その時にいろいろな人との出会いがあり、考え方や仕事の進め方の違いなど戸惑うこともありましたが、それ以上に学ぶことが多くとても貴重な財産となり、その縁を今でも大切にしています。

このたび保護司の委嘱を受け、保護司信条と一緒に唱えあう保護司の仲間入りができたことも何かの縁かなと考え、この縁を大切にしていきたいと考えております。

当分は現在の再任用雇用を続けながらではありますが、保護司の諸先輩の皆様や保護観察所の皆様のご指導の下、保護司活動に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



木村 麻人

第1分会 (駒込字蛭沢)

保護司の役割や更生保護の重要性は友人の先輩保護司が熱く語ってくださり感銘して更生保護に関わる事が出来ました。嬉しくもあり背筋を正して任務します。

仕事は現役で勤務しながら町内会長や民生委員・児童委員、防犯協会等、地域住民の高齢者や子どもたちに携わる機会が多々あるなかでの保護司への推薦を頂き、身の引き締まる思いです。

私は経験上子供たちと関わる機会が多くあり、感じていた事なのですが、いわゆる世間で問題視される子どもさんも感受性が強い子が私の周りには多く居るような気がします。先輩保護司の皆さまと保護観察所の皆さまと連携し専門知識を学びながら地域貢献できるよう、更生保護と再犯防止はもちろん、犯罪抑止できる環境づくりと子供たちの心のメッセージを敏感に受け取れる保護司に成長して参ります。



藪 克己

第2分会 (桂木)

尊敬する更生保護法人青森県更生保護協会理事長川嶋勝美様からいろいろなことを学ばせていただく中で、保護司になりたいと考えるようになり、希望をかなえていただくことができました。ありがとうございます。

私の周りには法曹界の方が結構おられ、その中には更生保護に熱心な友人がいるので、更生保護につきましてはある程度理解していたつもりではいましたが、実際に保護司の委嘱を受けた後に研修を複数回受講してみて、保護司の仕事は想像以上にたいへんであり、日頃からもっと積極的に学んでいかなければならないと痛感しているところであります。

日々少しずつでも先輩保護司の皆様方に近づいていくことができるよう精一杯努力いたしますので、どうか、今後ともよろしくお願ひいたします。



小倉 智恵美

第5分会 (浪岡字稲村)

なんと10月に対象者が決まり先輩保護司のお力をお借りして面接をし、第一回の報告書を終えた所です。この度、保護司のお話を頂いた時に思い出した事があります。それは20年前の中学校の同窓会の事、中学校生活はやんちゃ坊主で少年院にお世話になった同窓生も参加していました。すっかり見違えるように社会人として生き生きとしている姿を見て思わず話をすると、自分の努力だけで更生できたわけではない。まずは自分の話を聞いて、相談に乗ってもらい、そしていろいろと手助けしてくれる保護司の存在とその活動を初めて知りました。その時これから先にいつか自分にもその様な活動が出来ればと思いました。今回この様なご縁を頂きましたので、自分のできる限りのことをやってみようと思います。対象者の更生に寄り添いお手伝いが出来ればと思います。これからは諸先輩方の皆様と観察官の御指導の下、経験を積み重ねて参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。



広報グッズを追加したほど多くの方に配布できた

出前! 更生ホゴちゃん!

10月5日(木)~6日(金)の2日間、市役所駅前庁舎(アウガ1階・駅前スクエア)にて、更生保護に関するパネル展が開かれた。コロナ禍で活動が制限されたため3年前から無人で開催されている。広報グッズは、自由に取れるようにしている。地区事務局、渉外部員、サポセン勤務保護司が準備した。(パネルは、青森県保護司会連合会提供)

第73回「社会を明るくする運動」 青森地区更生保護女性会

第40回 みんなのつどい 令和5年7月27日(木) リンクモア平安閣市民ホール



青森地区更生保護女性会主催、社会を明るくする運動、第40回みんなのつどいが、7月27日(木) リンクモア平安閣市民ホールにて開催された。塩原実行委員長挨拶、西青森市長(代理)、青森保護観察所野尻所長より祝辞があり、収益からの寄付金贈呈、青森市社会福祉協議会成田会長の謝辞があった。プログラムでは、各地区更生保護女性会や賛助会員の舞踊・唄などが披露され、今年も青函交流で函館地区保護司会・函館地区更生保護女性会からの参加もあり賑わった。



青森矯正展

令和5年7月9日 青森刑務所



青森矯正展が、7月9日(日)、青森市荒川の青森刑務所で開催された。青森地区保護司会の地域活動部会では、社会を明るくする運動の広報活動で、来場者に当会で制作したうちわをプレゼントした。また、地区更生保護女性会は、フリーマーケットを企画してもたした。

アウガ前 街頭広報

(市役所駅前庁舎)

令和5年7月9日 市役所駅前庁舎



例年実施している社会を明るくする運動の街頭活動は、7月9日(日)、青森市役所駅前庁舎(アウガ)前で、西青森市長(青森地区社明運動推進委員長)をはじめ、当会の地域活動部会員がオリジナルうちわなどの広報グッズを、社明運動シンボルカラーの黄色いはんてんを着用し配布した。

令和5年度県央ブロック保護司研修会 ～むつ下北・野辺地・青森～

町田氏 自殺・他殺・病死35年の経験

熊谷氏 18・19歳の第5種少年院新設



令和5年度県央ブロック保護司研修会は、9月28日、青森市のアピオあおもりで、むつ下北、野辺地、青森地区の保護司95名が参加し開催された。

研修Ⅰでは「警察医35年」と題して青森県警察医会長・町田光司氏の講演で、事例の紹介では、留置者(高齢者)に多い疾患として脂質異常症と糖尿病があり、青森県民は炭水

化物を重ねて食べることが多く、糖尿病は多くの病気の原因になっているなど身近な内容の話もあった。

研修Ⅱでは、青森大学社会学部講師の熊谷芳子氏に「矯正医療について」の講演で、元少年院法務教官の経験から、少年院について、刑事施設における改善指導、依存を有する受刑者の処遇についてなどの話があった。

青函地区保護司会ツイン提携合同研修会

熱気溢れた交流

8月31日(木)～9月1日(金)、令和5年度青函地区保護司会ツイン提携合同研修会が、4年ぶりに函館市にて開催され、青森地区(保護司30名・OB会3名)、函館地区(保護司・講師・OB53名)が参加した。

研修の演題①は、「北方伝説の文化力」～坂上田村麻呂将軍と日蓮宗僧日持～、講師・北海道教育大学名誉教授・佐々木肇氏。

演題②は、「多世代で進める福祉のまちづくり」、講師は函館市地域包括支援センター・京谷佳子氏。また青森地区から第3分会の高坂行成保護司が骨髄移植により白血病を乗り越えたことを「生きる」と題して講話した。

引き続き交流会となり、両地区保護司やOB同士の情報交換や函館地区からの余興もあり賑わった。



講師の青森地区保護司会第3分会高坂行成氏



交流会の余興(函館地区更生保護女性会員他)

— 令和5年度 受彰おめでとうございます —
 青森地区保護司会被表彰者 (敬称略)

【法務大臣表彰】 松山 義幸

【全国保護司連盟理事長表彰】 穴水 由利子 岩谷 博昭

【東北地方更生保護委員会委員長表彰】 藤田 貢 高橋 俊嗣

【東北地方更生保護委員会委員長感謝状】 寄附者 白鳥 きよみ 青森地区保護司会

【東北地方保護司連盟会長表彰】

田邊 孝美	徳差 誠悦	齋藤 史彦	酢谷 奈保子
田川 伊吹	津嶋 博	山本 治男	家族功劳 神光子 (神勇の妻)

【青森県知事感謝状】

加藤 節子	樋口 修三	川嶋 勝美	長尾 幸治
-------	-------	-------	-------

【青森保護観察所長表彰】

大柳 正光	柿崎 慎一	榎 直哉	坂本 浩司
笹森 康之	中田 靖人	米谷 恵司	

【青森県保護司会連合会会長表彰】

猪股 幸子	柿崎 由見子	佐々木 聡	白取 めぐみ
平塚 勝	細川 信利	安田 由美子	
家族功劳 市川 紀子 (市川 和行の妻)		岩谷 裕子 (岩谷 博昭の妻)	

青森県再犯防止推進計画を着実に進める

第43回青森県更生保護大会

令和5年10月25日(水) 三沢市公会堂にて第43回青森県更生保護大会が、県内保護司をはじめ更生保護関係者およそ500名が参加し開かれた。

公演として航空自衛隊北部航空音楽隊の演奏後、式典があり保護司に法務大臣表彰等が授与され、大会宣言で締めくくった。



青森県更生保護大会のアーカイブをYouTubeにて配信中



青森県更生保護ネットワークのホームページ

幼い時に言われたことを。ひとこと

幼稚園や保育園、祖父母勿論両親からの生活する上で必要なことを教わってきたはずなのに・・・人は忘れる生き物だからこそ、「今」があるとすれば絶対的に忘れてはいけないことは幼いころの大人からの言葉であり行動だと思っている。職業柄、ゴミに関して小学生や中学生と話すことがありみんながゴミ拾いをしていると出てくる物

- ①たばこの吸い殻 (空き缶にも入っている)
- ②道路わきのビール缶
- ③弁当殻等。

誰ですか？運転中に窓から捨ててる人、運転中に飲んでるんですか？タバコは嗜好品なので吸っててもいいですが、灰皿携帯してないの？お弁当食べたならなんで持って帰らないの？と子供は思ってゴミ拾いをしています。

今の子供たちは環境問題についてとても熱心に学んでいます。大人たちが、「ゴミは拾いましょう」「使った場所は必ずきれいにしましょう」「次の人が使いやすいように」等々上げては切りがないほど生活をする上のルールを忘れてしまっているのです。

もう一度思い出してください。幼い時に言われたことを。後ろ姿見られてますよ！カッコいい大人になりましょう！！ 広報部 田中 桂子